

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	鶴見区西部地域包括支援センター
提出日	令和6年6月27日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	せいぶカフェでの耳寄り情報を用いた勉強会	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①世帯の変化や転居などによる地域との関係性が希薄になっている方への地域の初期介入方法の流れができていない。 ②認知症や精神疾患によりひとり暮らしが難しくなっているにも早期には発見されにくく、関係機関から情報も入りにくい。 ③子ども好きの高齢者が家族と一緒に参加できるふれあいの場など、意欲の向上につながる外出の機会が少ない。	
対象	65歳以上の方、若い世代も含む認知症や認知症予防に興味のある方とその支援者	
地域特性	担当圏域5地域の高齢化率は21.1%で、鶴見地域で37.4%という高齢化率が顕著に高い町もある一方、緑地域で7.2%という町もあり各町別でみると大きな差異がみられる。 地域の主になる見守りの担い手が地域によって地域役員、ふれあい員、民生委員など異なるが、高齢化がみられる。また、丁目単位で町会から退会される地域もある。	
活動目標	①高齢者の総合相談から地域との接点のない高齢者へ声かけし、地域の集いの場を周知する。 ②認知症などで理解力の低下された方が地域の相談窓口や関係機関の役割を理解できるよう、リーフレットなどを活用し説明しながら顔の見える場を作る。また、高齢者の生活困難な状況が早期発見できるよう「見守りの方法」を活用できるように周知する。	
活動内容 (具体的取組み)	①「せいぶカフェ」を圏域内5地域で集合型で各1回開催する(全5回) ②「せいぶカフェ」で耳寄り情報を用い、地域の課題にあわせてミニ勉強会を行う ・認知症に対する理解や予防、見守りの方法など ・インフォーマルサービスの情報提供として「社会資源マップ」の配布と説明 ・地域の通いの場の担い手に参加してもらい、顔の見える関係を作る ③顔の見える関係と関係機関で高齢者の情報共有をするために地域の通いの場の担い手や多職種に参加してもらった。参加) 地域役員、つなげ隊、認知症初期集中支援チーム、生活支援コーディネーター、介護支援専門員など	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・圏域内5地域で、60歳から90歳代まで69名に参加頂いた。 ・勉強会として「一人で暮らす親の見守り」「認知症やその家族を支えるために」など各地域の課題に合わせて勉強会を行った。 ・インフォーマルサービスの情報提供だけでなく、制度や相談窓口の紹介も含めた『高齢者のための総合相談窓口資源集 保存版』を作成し配布した。 ・地域のつなげ隊や地域役員の方に参加をお願いし、カフェを楽しみながら顔の見える関係づくりを行った。	
今後の課題	・多様な世代との交流へつなげたいが、周知方法や連携手段が不足している ・せいぶカフェにより通いの場への足掛かりとなるよう取り組んでいくために、他の通いの場につながっているかなどモニタリングする必要がある。 ・せいぶカフェに参加された地域役員の方が自主的にカフェを開催したいという気持ちを持たれたため、支援していく。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月17日(水)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	・せいぶカフェは状況に合わせて方法を変えながら独自性を発揮し、継続している。各支援者、地域住民にも理解を得て、活動の輪を広げ開催しており、今後も取組みを発展できると考える。 ・関心を持ってもらえるよう、広報の紙面を工夫することを期待する。	
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		